

入学式 告辞 (平成31年・令和元年度)

「筑後路や丸い山吹く春の風」と夏目漱石が詠んだたおやかなこの春の佳き日に、平成31年度久留米工業高等専門学校入学式を挙げていただけますことは教職員一同にとって、まことに慶賀の至りであります。

ご多用中のところ、ご臨席賜りましたご来賓の皆様には、高いところからでございますが、厚く御礼申し上げます。

本科並びに専攻科に入学された皆さん、本科に編入学された留学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。難しい入学試験を乗り越えて、わが久留米高専への入学を果たされた皆さんのこれまでのご努力に深く敬意を表します。

また、入学生の皆さんをこれまで支えて来られました保護者の皆様にとりましても、そのお喜びは如何ばかりかと拝察申し上げます。心よりお祝い申し上げます。

入学された皆さんの学業の場は、本日からここ久留米高専に移り、人生にとっても、新たな1ページが始まります。本日は、これまでの皆さんの人生の中でもひととき大きな喜びの中にあるのではないかと存じます。

また、5月1日には、「平成」から「令和」へと元号が変わり、新しい時代が始まろうとしています。その意味でも、本年度の入学式に際し、入学生の皆さんは、格別の感慨を覚えているのではないかと存じます。この喜びと感慨を忘れることなく、今後とも学業に励んでください。

すでにご承知のとおり、久留米高専は「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」を教育理念としております。「自立の精神」(Spirit of Independence)、「創造性」(Creativity)、「広い視野」(Broad Vision)、「豊かな心」(Humanity)そして、社会貢献(Contribute to Society)、そのいずれもが、社会にとって有為なるエンジニアの育成を使命とする高等教育機関である久留米高専の教育の根幹をなす大切な考え方であります。ここでは、このうち、「社会貢献」について少しだけお話しいたします。

久留米市に隣接する現在の佐賀県神埼市が輩出した教育者であり、文学者でもある下村湖人先生は、名作『次郎物語』の中で、「白鳥入蘆花」という言葉を次郎の師事する朝倉先生に語らせています。その一節をご紹介します。

「真っ白な鳥が真っ白な芦原の中に舞い込む。すると、その姿が見えなくなる。しかし、その羽風のために、今まで眠っていた芦原が一面にそよぎ出す、というのだ。お互いに、この白鳥の真似がしたいものだね。しかし、なかなかむずかしいぞ。それがほんとうにできるまでには、よほど心を練らなくちゃならん。…良寛のような人でも「千歳のなかの一日なりとも」と歌っているくらいだからね。」(『次郎物語第三部』)。

下村湖人先生のお弟子さんの一人である群馬大名誉教授故永杉喜輔先生は、「白鳥入蘆花」とは、「善行轍迹なし」と同意。本当によい行いはそれをした人の名を残さない」と解説しておられます(永杉喜輔「(下村湖人歌碑)解説」, 下村湖人生誕百三十年記念『任運膳々』下村湖人生家保存会より重引)。

グローバル企業であるブリヂストンの創業者である石橋正二郎さんが企業経営だけでなく、教育や文化の面でも社会事業に大きな足跡を残されたことは周知のことです。その石橋正二郎さんは、自伝『私の歩み』の中で、ご母堂、まつ様のことを次のように記しておられます。

「男三人女三人の子供を育て、愛情をこめてその成長に力を注ぐかわら、父の仕事を助けていた母に対し、じつになつかしい気持ちを抱いている。慈悲深い、やさしく親切な性格のひとつで、人の難儀を見ると心から心

配して陰徳を施していた。」

石橋正二郎さんの企業活動や社会事業の原点は、ご母堂様のこの「陰徳」という考え方、すなわち、白鳥が蘆花に入るが如く、人に知られないようにひそかに善を行うということにあったのではないかと考えます。

翻って、入学生の皆さんがこれから本格的に学んで行くエンジニアリングやテクノロジーは、究極的には、人々の生活や社会を快適で、便利で、面白く、かつ安全なものにするためのものであることは、言うまでもありません。先ほどご祝辞を賜りました国立高等専門学校機構理事長谷口功先生が、エンジニアをして、「ソーシャルドクター」や「クリエイター」であると言われる時、そこには社会貢献が含意されていると思います。しかも、それは一人の傑出した人物、言わば英雄的な人物だけによって成し遂げるものでは決してありません。エンジニアリングやテクノロジーの世界の新たな発明・発見が社会のニーズと結びついて、技術革新（イノベーション）を生み出したとしても、それは多数でかつ多様なエンジニアやそれ以外の分野の関係者との協働作業の結果であり、そこに参加した人のほとんどは歴史に名を残すことはないことを私たちは肝に銘じておく必要があるかと存じます。その意味で、人知れずとも、「世のため、人のために」、すなわちわが久留米高専の教育理念が謳う「社会に貢献する」という志を持って、皆さんがエンジニアの道を選択されたことに改めて敬意を表します。

本日入学された皆さん、正課（勉学）においても、課外（部活動や学生会・寮生会等の活動）においても、世のため、人のために学んでいる、あるいは学んだことは必ず世のため、人のためになるということを意識し、研鑽を積んでください。そうして、皆さんが、日本と世界の未来を担うエンジニアとして、大きく、たくましく成長していかれることを心より祈念申し上げ、本日のめでたきご入学に際しての校長告辞を結びます。

平成31年4月5日

久留米工業高等専門学校長
三川 譲二